

温風式乾燥機による綿布の乾燥について.

福岡女子大家政 平松園江

中村学園短大 〇佐々木シナ子

目的 回転式乾燥機、恒温乾燥機中の布の乾燥について、3の報告につづいて、今回は主に温風吹込式乾燥機と衣類用ケースを使って、布にレウのよらない吊下げの乾燥を行う場合について、2機種を比較し、それらの改良点、上手な使い方を考える基礎を探し出したと考えた。

方法 乾燥機はN、H社を、布は処理した晒木綿を長さ100cmに裁断して用いた。まず布を入れない時の機内温度の場所による違いを調べた。布を入れた時の機内温度と布の表面温度との関係も調べた。またH社で布の枚数を変えて入れた時の布の乾燥状態と、布表面温度との関係を調べ検討した。機内温度と布表面温度は、タカラサーミスター温度計で測定し、重量変化は台上にのせた、床下秤量皿直示天秤より直結した布を機内中に吊下げて、主に3分毎に秤量した。

結果 まず布を入れない時の温度上昇は室内22℃の場合、約12分で最高に近くなり以後ほぼ平衡状態で、最高となる場所でN社51℃、H社47℃であり、2社吹込位置とケースの大きさの影響で、部位による差に違いがあり、H社は6℃、N社は2℃と少なかった。

湿布を10枚(約716g)入れた場合、機内温度上部、下部の温度は大差なくなり、温度上昇は乾燥終了まで上り続けたが、布なしの場合の最高温度迄には達しなかった。

湿布の乾燥による温度変化は、機内温度と異なつた傾向を示し、ある水分量になると急上昇する二つが認められた。